

ふく チャレ



高橋大就さん(左)と生産者(新規就農者)の吉田さやかさん。草が生い茂る状態から開墾した農場から、楽しいわくわくを生み出していきます。

「わくわく」を
みんなで感じながら、
魅力ある浪江を創りたい

一般社団法人
東の食の会 専務理事
一般社団法人
NoMA ラボ 代表理事
たかはし だいじゅ
高橋 大就さん

東

日本大震災の惨状を見た高橋大就さんは、2011年

6月から東北の一次産業と向き合い、課題解決に向けた取り組みを開始。2016年からは、福島県の食産業支援に注力、今年4月、浪江町に移住しました。

いま取り組んでいるのは新しい農場づくり。「ここで、日本では今まで生産していなかった珍しい農作物を作ろう、という試みを始めています。私たちは関わるみんながときめく『わくわくの芽』を生み出すことを一番大切にしています」と高橋さん。農場には県内の農家や岩手県の漁師などが駆け付け、目を輝かせながら作業しています。高橋さんは日本のトップクラスの農家が集まって好きな作物を作る、世界中



パリでの東北の食の試食会。お酒やお酒に合う料理などの味わいを、食の都・パリに届けていきます。



「道の駅なみえ」に生産者が集まり、マーケティングやブランディングを学ぶ「ファーマーズキャンプ」を実施。

のどこにもない農場を浪江町に作りたいたいと考えています。

こうした活動と合わせて、高橋さんは浪江町の記憶・伝統・文化を次代に残していくためのアートを街中に創ろうという試みをいま、住民とともに進めています。さまざまなかわくわくの芽がここで生まれ、しっかりと根を下ろし始めています。



農場づくりで岩手県三陸などから集まった方々は、自分の地域の復興のみならず、ぜひ浪江町での新たな食産業の誕生に関わりたいたいとの思いで集まりました。